

「早稲田大学121号館 リサーチイノベーションセンター」

Waseda University BLDG. 121 Research Inovation Center



■交流を生み出す高密度な研究拠点

早稲田大学の産学連携研究を実践する中心的な役割を担う施設として、既存の研究施設の一部の建替えを行った。高密度に作るために、敷地形状に沿った建物形状に対し、設備フロアに地下式柱頭免震構造として、意匠・構造・設備が一体となり、安全で合理的な計画とした。

建物の中央に配した、地下1階から地上6階まで続くスキップフロアの吹抜空間や、建物同士の隙間を介して研究者間の交流が生まれ、研究活動の新たな拠点を創出している。

■研究環境の安全性・持続性の確保

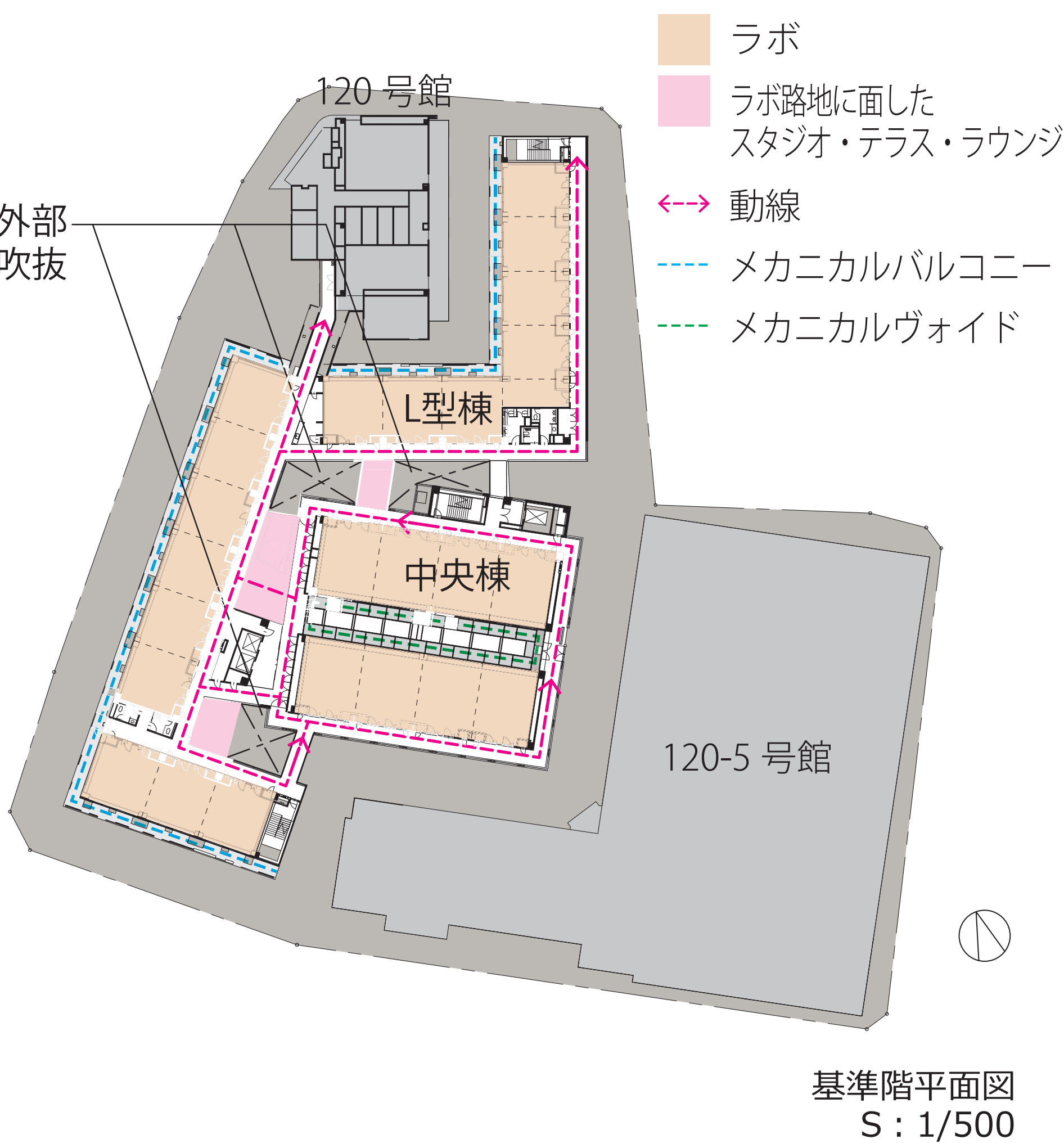
地下2階での中間階免震構造という前例のない難易度の高い構造形式を採用している。この構造形式により、不整形な3つのブロックを渡り廊下で連結、執務空間に大梁を設けないフラットスラブ構造の採用などの課題を解決し、研究者が交流できる動線とラボとしてフレキシビリティの高い空間を確保すると同時に高い耐震安全性により貴重な研究・人材を保護するなど、魅力ある研究施設拠点を提供している。

■拡張性と環境に配慮した設備計画

研究室にはメカニカルバルコニー・ヴォイドを設けるなど、将来増設に配慮して実験環境に拡張性を持たせるとともに、室内に分電盤を設置し、過負荷時の他室への影響を最小限で復旧できるシステムとした。騒音基準値遵守とラボ将来増設スペース確保のためインバーターボ冷凍機等の省エネ性の高い熱源機を採用している。

機械室、電気室等のある地下2階ではBIMを活用して合理的に納め、免震装置の更新にも配慮した計画を実現した。

新たな研究の場づくり
高密度かつ高機能な



■ PROJECT DATA

所在地 東京都新宿区
主要用途 大学
基本設計 株式会社久米設計
実施設計 株式会社久米設計
戸田建設株式会社一級建築士事務所
共同企業体

敷地面積 7,930.75㎡
建築面積 2,682.86㎡
延床面積 18,536.98㎡
階数 地下2階/地上6階
構造 RC造、一部S造、(柱頭免振構造)
竣工 2020年1月

■ PROJECT MEMBER

PM 有森 憲治
意匠 岩岸 宏次 遠藤 広基
構造 石坂 隆幸 川又 哲也
設備 豊泉 孝浩 白戸 精 後藤 孝彬